

TEL&FAX:092.892.6673

新刊

「重力」編集会議発行
「叢書重力」第1弾!

アストロノート

松本圭二

主な詩集
『ロング・リライフ』(七月堂)
『詩篇アマータイム』(思潮社)
『詩集工都』(七月堂)

ガブリエルは死ぬ
その命名の重みによって
君はブラジル丸の甲板から太平洋へ唾を吐け
俺は500CCのゴリラに跨がって国道1号線を東上する
「生きることは楽勝だな」

「ああ、ヤツさえいなければな」
潜伏先の地方都市で静かな家庭生活を得た一人の男
彼を新たな破壊工作へと誘う謎の過激派組織
「ヤツに改造銃を持たせた組合があるらしい」

「ああ、伝説だ」
巨大化したネズミ男たちがまき散らした孤独についての伝説
残酷な運命、理不尽な命令
皆殺しの街から生き残った一人が帰って来た!

一日中イラついているなら、
信じられなくなった自分の才能を惜しむなら、
これを読め!

日本語で書かれた最長のハイパー・テキスト詩篇「アストロノート」!

定価2500円(税込)

「重力」編集会議発行

2006年1月15日発行

46判変型美装/256頁

■ご注文はFAXまたは「web重力」からお申し込みください。

[URL]www.juryoku.org/

[e-mail]juryoku@juryoku.org

[TEL&FAX]092.892.6673

①買切り(返品不可)

②正味60%

③送料、振込手数料は無料(「重力」編集会議負担)

④ご注文は2冊以上でお願いします(別商品の組み合わせでも可)

*商品発送と同時に請求書と郵便振替用紙をお送りしますので、翌月末までに代金をご精算ください。

*定価表示はありますが、店頭での販売価格は書店さんの判断でご自由に設定下さい。

■いわば「生死」の前線をできるだけ強固に引くこと。それが詩の(文学の)倫理だし、役割だ、ということをはっきりさせている詩集が一冊あり、現代詩に興味のない人にほど推薦したいその一冊は『アマータイム』(2000, 思潮社)と題された松本圭二の詩集である。サマータイムにSがないこの詩集には、いまの世界がすべて書かれてある。…いまのところこの『アマータイム』に匹敵するのは、フランスの映画監督ジャン=リュック・ゴダールの饒舌だけである。
■前作『アマータイム』評 by 稲川方人(MR, 2001. 2)

■詩には興味がないが、松本圭二の「詩」だけは繰り返し読んでしまう。ただ、これを詩と呼ぶのか分からないので、その言葉の繋がりを讀むわけだ。日常の中で「狂い」を重ねた末、「怪物」が書き綴る「言葉の繋がりに」。…『詩集工都』、『アマータイム』を経て新作「青猫以後」は、枷が外れ、不穏だ。もう詩でも小説でも構わない。ますます「怪物」は膨れ上がっているのだ。
■越川道夫(「文藝」2001. 冬)

■瓦礫の時空をくつがえすハイブリッドマガジン、「重力03」=[徹底研究]Q-NAM問題、責任編集 鎌田哲哉 06年4月待望の刊行!

こ	新刊 アストロノート 松本圭二	冊
注	ブックレット LEFT ALONE 構想と批判 鎌田哲哉編著 80頁 600円(税込)	冊
文	重力02 特集一九六八年革命 2415円(税込)	冊

大好評既刊

大好評重版